順天堂大学
先導的がん医療開発研究センター
2013 第5号
Leading center for the development and research of cancer medicine
ニュースレター

第1回臨床研究チーム合宿 開催

～多施設・多職種チームで研究プロトコールを作成し、実践しよう～

参加校：順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学

平成25年 3/2(土)～3(日) in 晴海グランドホテル

順天堂大学　医学研究科 乳腺・内分泌外科学　**教授　齊藤 光江**

臨床研究チーム合宿記

2013年3月の第１土日に、順天堂大学第二期がんプログループの各大学の大学院生有志たちが、それぞれの研究テーマを携えて晴海の研修所に集まった。３名の生物統計学の熱心な講師陣（山本、米本、松岡先生ら）の講義と、ビジネスコンサルタント大崎さんの楽しいチームビルディングの体験実習の後は４つのグループに分かれ、いよいよ一夜を共にするグループワークの始まりである。持ちよった研究テーマを発表し合い、各々８名ほどの多分野の大学院生たちが、全員で関われる研究テーマを決めていく。この作業の中で、リーダーシップ･コミュニケーション･フォロワーシップ･コンフリクトの解決法・エビデンスの重要性などを体得していく。医師・薬剤師・統計学者・医学物理士の卵たちが、時に熱く、時に壁にぶつかり、最後はプロトコールを作り上げるというゴールに向かっていく中で、研究においてもチームワークが如何に大事であるかを学んでいった。と同時に、各大学の講師陣がチューターとして、これを見守り、要所要所で集まって進捗を報告し合い、何を指導すべきかを討議した。結果、介入を試みたり、更に見守ったりと、こうしたグループワークの教育法を学ぶという、院生に負けないくらいエキサイティングな経験をした。

二日目の発表会においては、４グループとも見事に研究プロトコールを作り上げ、チューターの投票による優勝チームには、今後その実施を支援するという副賞が付いた。どのように研究課題を決めるのか、どのようデザインをするのか、どのように計画書をまとめるのかのみならず、どのようにチームを作っていくのかということを院生も教員も学んだ濃い二日間であった。第一期がんプロ合宿で積み上げたノウハウを活かし、更に充実した企画になったと感じている。既に２チームは、研究の開始に向けて多職種・多大学ミーティングを始めている。実際の成果を挙げてこその企画であるから、今後、真のゴールに向けて教員一同支援していきたいと考えている。

急遽の企画にも関わらず、快く協力下さった講師の先生方、事務方、そして何より頑張った院生たちに、この場を借りて感謝申し上げたい。

合宿当日のスケジュール

期日	時　間	内　　容
第1日目(3月2日)	12:00～12:05	挨拶、事務連絡
	12:05～13:15	臨床研究のためのランチョンセミナー
	13:15～18:30	チーム研究実習（グループワーク）
	18:30～19:30	「チームの役割とは」ディナーセミナー
	19:30～21:30	グループワーク
第2日目(3月3日)	9:00～11:00	発表会
	11:00～11:30	全体討論・感想
	11:30～12:00	修了式　等

島根大学　医学部 内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学　教授　礒部 威

合宿記

医療関連の多職種が集う合宿であり、しかも初対面の者も多く、うまく対話ができるのだろうか？また、このような短時間で研究のプロトコールが作成できるのだろうかという、不安を抱えての参加であった。ところが、会場内は活気に満ち溢れ、グループに分かれてからの討論では、それぞれがプロフェッショナリズムを存分に発揮し、夜中になっても時間など関係なく、一つの目標「多職種が関わることのできる研究計画書の作成」に没頭している姿には心を打たれるものがあった。また、この合宿は翌朝に行われた、各グループが作成したプロトコールの発表が着地点ではなく、まさにスタートであったことは、参加者全員が認識していることと思う。この素晴らしい合宿を企画した順天堂大の齊藤先生をはじめ、大きな包容力で指導にあたったチューターの存在もこの会を成功に導く力となった。偶然にも私が担当したチームが最優秀となった。今後このがんプログループで総力を挙げて研究を進め、がんプロの仕事として日本初の学会発表、論文化すべく始動している。夢が現実になる日は近い。

東京理科大学　薬学部 生命創薬科学科　教授/TR部門長　深井 文雄

第１回臨床研究チーム合宿に参加して

「多施設、多職種チームで研究プロトコールを作成し実践する」とのフレーズに魅力を感じ、研究室の学生３名と助教の計５名で参加させて頂いた。学生は自身の卒業研究に関連した研究提案を携えての参加となったが、幸いそのうち２つの提案がグループテーマとして採用され、両グループの議論に立会った。両グループとも実際に多施設・多職種で構成されており、そのためか、始めは議論が噛み合っていなかった。夜も深まった頃から遠慮のない「言い争い」が始まり、議論は白熱化した。とはいえ『今晩中にまとめるのは無理かな？』と思いつつ当方は就寝した。そんな懸念をよそに、翌朝の発表会では見違えるようなプレゼンが展開された。各グループは、たった一晩の議論によって、もちろん至らない部分もあったが、臨床研究を見事に企画した。正に「チーム医療」を見る思いがした。残念ながら、私が立会った両グループとも、最優秀賞は逃したが、今もメンバー間での交流が続いており、議論された研究も進行している。

色々な意味で、意義深い合宿であった。企画された先生方に敬意を表すと共に、本研究チーム合宿が、更に回を重ねて行くよう願ってやまない。

連携７大学ICT講義が始まりました

本グループでは連携7大学を「ICT」と「循環型人材交流」で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を目的としています。
今年度からは、ICTを活用し連携7大学を繋ぐ、双方向の講義が始まりました。講義は年4回の開催となり、下記の予定となっております。
詳細は、ホームページ（**http://ganpro-ict-plan.jp/index.html**）の「**e-learning**」から「**大学院特別講義のお知らせ**」を選択し、ご覧下さい。

連携大学ICT特別講義

講義内容	主担当大学・教員	ゲストスピーカー	期　日
患者が求めるがん医療	岩手医科大学　産婦人科学 教授　杉山 徹 岩手医科大学　外科学講座 講師　柏葉 匡寛	NPO法人 グループネクサス 代表　天野 慎介 NPO法人 がんサポートかごしま 代表　三好 綾	5月14日(火) 18:30 ～ 20:00
新薬、機器開発（PMDA）	順天堂大学　臨床薬理学 教授　佐瀬 一洋 東京理科大学　薬学部薬学科 教授　東 達也	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA） 審議役　佐藤 岳幸	6月12日(水) 18:30 ～ 20:00
がん医療コーディネーター（CRC/共同研究コーディネーター）	明治薬科大学　薬物治療学 教授　越前 宏俊 明治薬科大学　医薬品安全管理学 教授　遠藤 一司	未定	10月予定 18:30 ～ 20:00
病診薬連携と地域医療・MSW（地域医療のメディカルソーシャルワーカー）	島根大学　内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 教授　礒部　威	未定	平成26年 1月16日(木) 18:30 ～ 20:00

シンポジウム開催報告

順天堂大学 医学研究科 分子病理病態学　教授　樋野 興夫

2月28日(木)　国際シンポジウム

「先導的国際がん研究の動向：アスベスト暴露による中皮腫～環境発がんのリスク予知と予防への新しい展開～」が開催された（2月28日）。タイ、ベトナム、韓国、インドネシア、日本の研究者、さらに、厚労省、文科省、環境省をはじめ、多数の参加者があり、今後の国際交流･協力のありかたが大いに議論され、極めて充実した、大変有意義な国際シンポジウムであった。

2月28日(木)　国際シンポジウムの様子

3月11日(月)　市民公開シンポジウム

『「医療者が情報提供のみを行い、患者の自己決定を促す」ことが「患者を尊重すること」ではない』ことに、国民は気が付き始めている。「原則を身につけた研究者・医療人」を育成する為に「対話学･対話カフェ」を導入することは「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の使命であろう。その観点から、市民公開シンポジウム「対話学･対話カフェの重要性」（3月11日）が企画され、会場には多数の参加者があった。

3月11日(月)　市民公開講座の様子

情報コーナー

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- **順天堂大学　国際シンポジウム**
  テーマ「先導的国際がん研究の動向」
  2013年2月28日（木）13：00～16：30　順天堂大学 センチュリータワー 8階 801教室

- **順天堂大学 第1回臨床研究チーム合宿**
  ～多施設・多職種チームで研究プロトコールを作成し、実践しよう～
  2013年3月2日（土）～3日（日）　1泊2日　晴海グランドホテル

- **順天堂大学 市民公開シンポジウム**
  テーマ「対話学・対話カフェの重要性」
  2013年3月11日（月）13：00～15：30　順天堂大学 10号館 1階 105カンファレンスルーム

今後のスケジュール

- **連携大学ICT特別講義　テーマ「新薬、機器開発（PMDA）」**
  ゲストスピーカー：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)審議役 佐藤 岳幸 氏
  対　　象　：大学院生、医師・薬剤師・看護師など診療・教育・研究に携わる全ての医療人
  2013年6月12日（水）18：30～20：00　ICT接続により連携7大学各校で開講予定

- **外部評価委員会**
  2013年10月25日（金）13：00～16：00　順天堂大学 10号館 1階 105カンファレンスルーム

編集後記

人間の身体と臓器、組織、細胞の役割分担とお互いの非連続性の中の連続性、そして傷害時における全体的な「いたわり」の理解は、世界、国家、民族、人間の在り方への深い洞察へと誘うのであろう。最近の報道に見る「いじめ」をはじめ「社会・組織・人格の劣化」に対する「日本国の処方箋」は、実は「偉大なるお節介症候群」（診断基準：1.暇げな風貌 2.偉大なるお節介 3.速効性と英断）に、具象的に、内包されていると思える。がん医療の現場における「対話学・対話カフェ～偉大なるお節介～」の重要性の気づきでもある。「偉大なるお節介症候群」認定の選考項目として、（1）「役割意識＆使命感」（2）「練られた品性＆綽々たる余裕」（3）「賢明な寛容さ」（4）「実例と実行」（5）世の流行り廃りに一喜一憂せず、あくせくしない態度（6）軽やかに、そしてものを楽しむ。自らの強みを基盤とする（7）新しいことにも、自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力する（8）行いの美しい人（a person who does handsome）（9）「冗談を実現する胆力」～sense of humorの勧め～（10）「ユーモアに溢れ、心優しく、俯瞰的な大局観のある人物」が挙げられる。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター
順天堂大学がん生涯教育センター
〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1
編　集　順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン　広報委員会
発　行　順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
http://ganpro-ict-plan.jp/index.html